

新総合計画 基本構想（案）について【1.踏まえるべき前提】



【起点・直面する課題】 市の現状と社会情勢

- 急激な人口減少と若い世代の市外流出による担い手減少・地域維持の危機
- 従来の「拡大・拡張型」まちづくりの限界により人口減少を前提とした「持続可能性重視」への転換が迫られる
- 生活基本機能（医療・商業・交通等）維持のため、市町村の枠組みを超えた広域連携の必要性
- 地域コミュニティによる自治機能と公助による対応の限界。対話と協働による住民主体の地域づくりが不可欠。

◆市民の声

日常生活インフラやコミュニティの持続性への不安

世代間の分断、居場所と寛容性の不足

地域の稼ぐ力の低下（地域産業衰退）



【将来に向けた方向性】 市民の声とありたい姿

- 住民が主体的に地域を支える「自立」と、多世代がお互い様で補い合う「共生」が今後の方向性の軸
- 豊かな生活実感と幸福を重んじる次世代のマインドセットへの転換「Quality of Life」、「自発的」、「寛容」、「内発的価値創造」
- 将来に向けた4つの方向性「教育・還流」
郷土への誇りを育み、知恵やスキルを地域に循環させる次世代育成
- 「共生」
多世代が自然に集い、孤立を防ぐ温かい共生コミュニティの創出
- 「経済」
既存の地域資源を柔軟な発想と連携で磨き、自立できる「稼ぐ循環経済」の確立
- 「安全」
日常の安全を守り、大規模災害を乗り越えてきた「共助の力」を発揮



【次世代に遺すべきもの】 不変の価値・地域の誇り

- 歴史・伝統に根差した地域の誇り（城下町・野馬追など）
- 東日本大震災の試練を共に乗り越えた「強靱な市民の絆」
- 松川浦・阿武隈の山並み・田園風景等の豊かな自然資源と都市インフラの共存（相馬港、高速道路、中核工業団地）
- 市民憲章にうたわれる報徳の訓え
至誠 真心を持って尽くす（偽りのない心で真摯に励む）
勤労 自らの役割に励む（道徳と経済の両立）
分度 収支の枠を守り、計画的に生きる（持続可能・調和）
推譲 余力を社会や未来に譲る（善の循環と社会の調和）

◆市民の声（中高生アンケート「相馬市の好きなところ」より抜粋）

海、山がある。田んぼが広がっていて自然豊か。

環境の良さ、常磐ものが美味しい

伝統の継承、東日本大震災の復興の取り組み方

新総合計画 基本構想（案）について【2.目指す未来】

生産年齢人口が急減する「2040年問題」が起こるとされる2040年代を迎えても、人口減少社会を乗り越えられる、強く・魅力あるまちを創り、次世代に確実に相馬市を引き継ぐ

計画終期 2036年の ありたい姿 （相馬市人口ビジョン3.0準拠）	人口の社会動態	社会増減 ± 0 を達成
	合計特殊出生率	合計特殊出生率 1.43 を達成
	市の総人口	総人口 29,000人台 を維持

◆重視する方向性

若者・女性に選ばれるまち

- **まちの魅力向上**
安心安全な住環境・防災対策の充実、まちの利便性向上、教育と子育て支援の充実、地域資源を生かした産業・観光活性化、等
- **若者・女性が活躍する開かれたまちへ**
官民連携の推進、情報発信の強化、移住定住の推進、アンコンシャス・バイアスの解消、等
- **若者の相馬に対する愛着形成**
中高生と地元社会とのつながり強化、転出した若者とのつながり維持（関係人口化）、等
- **魅力的な労働環境の整備**
企業誘致推進、働きながら育児ができる環境整備、長時間労働是正、柔軟な勤務形態の拡大、等

人口減少・高齢化社会においても持続可能なまち

- **多様な主体の連携**
市民協働・市民参画のさらなる推進、広域連携、官民連携の推進、等
- **効率化・省力化の追求**
公共施設の集約・再編・持続可能なあり方の検討、自治体DX推進、等
- **シニア層の活躍推進**
地域活動活性化、多世代交流、健康づくり・健康寿命延伸・介護予防推進、等
- **急速・急激な社会の変化に対応できるまちへ**
技術革新や制度改革への柔軟な対応、対話を通じた市政への理解の浸透、等

新総合計画 基本構想（案）について【3.将来像・基本理念】

● 目指すべきまちの将来像

つなぐ、ひらく、みんなのまち。
～ 笑顔あふれる相馬 ～

【補足】

「つなぐ 繋ぐ 継ぐ」
人をつなぐ、次世代につなぐ、誇りの伝承、
道（インフラ）をつなぐ、等をイメージ

「ひらく 拓く 開く」
未来を開拓する、チャレンジを推進する、
オープンなまちづくり、多様性を受け入れる、
変化を受け入れる、新しい意見を受け入れる、
等をイメージ

● 基本理念

1 誇りと絆を次世代につなぐまちづくり

● 不変の誇り・次世代継承

豊かな自然と伝統文化、震災復興で培われた絆、報徳の精神を
次世代に継承し、教育を通じて未来の相馬人を育む

2 笑顔と安心をともに守るまちづくり

● 共生社会・笑顔と安心

「お互い様」の助け合いで日々の安心をつくり、
誰もが自分らしく笑顔でいられる場をともにつくる

3 つながりを力に、新たな活力を創るまちづくり

● 地域の活力・挑戦と連携

地域内外の多様な関係者がつながり、それぞれの知恵と地域資源を活かし、
新たな価値と活力の創出に挑む

4 対話と協働で、持続可能な未来を拓くまちづくり

● 市民協働・持続可能な経営

対話を基盤に、市民・行政・民間が自分ごととして課題に向き合い、
時代の変化に適応しながら、協働で持続可能なまちを創る

新総合計画 基本構想（案）について【4.施策の主要テーマ】

●施策の主要テーマ

つなぐ、ひらく、みんなのまち。
～ 笑顔あふれる相馬 ～

①	②	③	④	⑤
一人ひとりを大切にする 笑顔あふれるまち	誰もが安心できる 暮らしやすいまち	人を育み次世代につなぐ 教育と文化のまち	つながりと挑戦で明日を拓く 産業のまち	みんなでつくる 持続可能なまち

【補足】将来像との関連性

- ①一人ひとりを大切にする笑顔あふれるまち
笑顔、みんな
- ②誰もが安心できる暮らしやすいまち
みんな、笑顔
- ③人を育み次世代につなぐ教育と文化のまち
つなぐ
- ④つながりと挑戦で明日を拓く産業のまち
つなぐ、ひらく
- ⑤みんなでつくる持続可能なまち
みんな、つなぐ

●新しいまちづくりの原動力 <計画推進のスローガン>

もっといい まちをつくらう

【補足】

・職員・市民一人ひとりが、現状に甘んじることなく、「真摯な姿勢」でまちを良くするための行動を促すスローガン
・報徳仕法の「至誠」「勤労」「分度」「推譲」全てを包含